

福祉体験学習を通して育む「理解」と「共感」

防府支部 青年部長 田中 宏明



■福祉を“体感する”学びの場

防府支部では、身体に不自由のある方の生活を疑似体験する「福祉体験学習」を継続して実施している。本事業は、身体に不自由のある方の生活を疑似体験することで、知識だけでは得られない“気づき”や“思いやりの心”を育むことを目的としたものであり、建築士のみならず、高校生や小学生、教育関係者など、多様な世代・立場の人々が関わることで、相互理解を深める貴重な機会となっている。



開会式



閉会式 早野支部長挨拶

■継続から発展へ — 福祉体験学習の歩み

本事業はこれまで、防府支部青年部を中心に継続的に実施されてきた取り組みであり、当初は高校生を対象とした福祉体験としてスタートした。その後、福祉教育のさらなる充実を目指し、小学生との連携へと発展し、現在では異なる世代が共に学ぶ「協働型の体験学習」として定着している。特に、小学生と高校生が混成班を構成し、互いに教え合いながら体験するスタイルは、単なる体験にとどまらず、「伝える力」や「気づく力」を育む場として大きな意義を持っている。近年は、誠英高校側からの主体的な提案も増えており、本年度は新たに「VR体験」が導入された。こうした協働関係の深化により、体験内容はより実践的かつ多角的なものへと進化している。



①ポッチャ体験



②色の識別・折紙体験



②色の識別・折紙体験

■令和7年度 福祉体験学習 実施概要

「第21回誠英高校・第10回勝間小学校福祉体験学習会」

日時：令和8年2月14日（土）

会場：防府市立勝間小学校

参加者：

- ・誠英高校 福祉科1年生 20名
- ・勝間小学校 3年生 43名

スタッフ

- ・建築士会防府支部 会員 15名
- ・誠英高校 教員と福祉科2,3年生
- ・YIC 看護福祉専門学校 教員と学生

実施形式：

小学生と高校生の混成5班によるローテーション形式

■体験プログラム

- ① ポッチャ体験（誰もが楽しめるスポーツ）
- ② 色の識別・折紙体験（視覚・手先の不自由さの体験）
- ③ VR体験（認知機能トレーニング）
- ④ 車いす体験（住環境の理解）
- ⑤ アイマスク体験（視覚障がい者の移動支援）

※それぞれの体験を通して、「見えにくさ」「動きにくさ」「伝わりにくさ」といった日常の不便さを体感



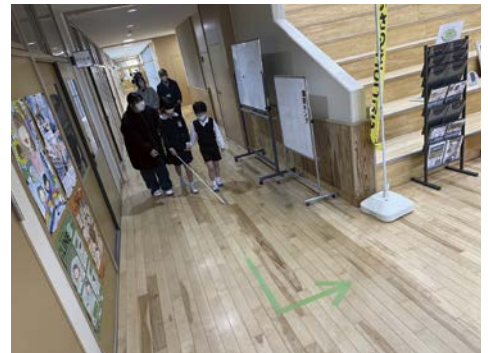
③VR体験



④車いす体験



④車いす体験



⑤アイマスク体験

■ 体験から生まれる気づき

児童たちは、体験を通じて「なぜ困るのか」「どうすれば助けられるのか」を自然と考えるようになり、その気づきは感想文にも率直に表れていた。また、高校生にとっても、小学生に寄り添いながら説明・支援を行うことで、自らの学びを再確認するとともに、伝える力を養う機会となっていた。

【体験した子どもたちの声（抜粋）】

勝間小学校 児童

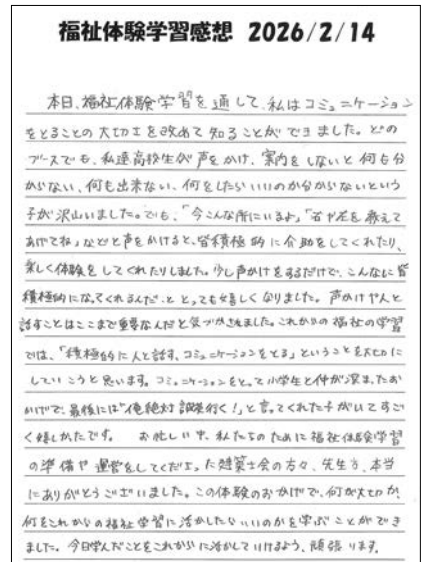
「目が見えないだけで、こんなにこわいと思わなかった」

「車いすの人の気持ちがわかった。これからは手伝いたい」

誠英高校 生徒

「どう伝えたらわかりやすいかを考えるのが難しかった」

「自分が学んでいることを人に伝えることで、理解が深まった」



■ 建築士としての再認識

我々建築士にとっても、本体験は「利用者視点」の重要性を改めて実感する機会となった。図面や数値だけでは捉えきれない“実際の使われ方”や“感じ方”に触れることで、福祉と住環境の関係性をより深く理解することができた。

■ おわりに

福祉体験学習は、子どもたちにとっての学びの場であると同時に、私たちにとっても原点を見つめ直す機会である。今後も地域や教育機関との連携を深めながら、本事業を継続・発展させていきたい。